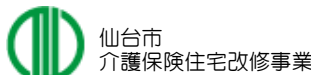
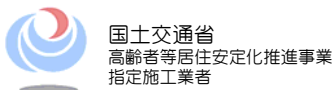


目次

- 代表大工コラム
その34
「進むべき道 ～没頭～」
- 建前のお話
- 2013年1月カレンダー

大貫潤平ブログ

3年間補欠部長
自然素材の家づくり 太陽光発電
日々の出来事日誌はこちら▼
<http://ameblo.jp/onuki-kenchiku/>



(社)住宅瑕疵担保責任保険協会



ハウスプラス住宅保証株式会社



みやぎ仙台商工会
特定非営利活動法人
伝統木構法の会



「J-Press」がご不要の際は当社まで
ご一報下さい。速やかにご案内を差し
控させていただきます。

全国エコライフ研究会
宮城西支部

「野球魂」その34 「進むべき道」～没頭へ

こんにちは！今年も残りわずかとなりました。去年は震災一色だったのに対して、今年はどうのような一年だったでしょうか？考えや身構えに変化があったと思います。地震があるたび『またか!?』という思いと、次への備えが身についています。どうかお正月はおだやかに過ごしたいものですね…

さて、今回は私事です。まだ決定ではないのですが先日、私の母校であり野球部へ『甲子園』を目指し、気仙沼市私立東陵高校へ、中学校内推薦選考通知をいただいた長男の哲平です。ひとまず『おかげ様です。』

中学3年生は半年ほど前から、自分自身の進路についてチラホラと希望校を物色し始めるわけですが、いろいろ悩んでも選べる学校は一つしかないわけで、その学校ではどんな生活がしたいのか？もっとしぼるとその学校へは『何の為』に行くのかという事になります。私が同じ時期は、すでに決定している未来予想図がありました。『甲子園』。『アルプススタンドに向かってガッツポーズの自分』覚悟が決まれば後は行動するのみです。当然、経済的負担もかかるので本人の意思がどれくらいか？というのも、現在親になり来月4月からかかる費用を考えると決して安いものではありません。

私は東陵高校へ行くこと決めてからは、180度生活を変えたといっても過言ではありませんでした。素行が人一倍悪かった為、見た目から変えました。改造制服(刺繍入り)を脱ぎ捨てて中学1年生時購入の標準学生服へ(ツツルテン(くるぶし見えまくり)。当時吸っていたタバコは、校長先生の目の前で『2度と吸いません』と2～3本しか吸っていないマイルドセブンを箱ごとねじり、決意表明しました。その時から一度も吸っていません。その時は普通に吸っていましたが…(笑)勉強などは高校に行く気もサラサラありませんので全くしておらず、小学4年生のドリルからやり直しました。家庭教師も週3回。トレーニングは大雨、大雪、雷でも必ず毎日5kmランニング、ダッシュ、筋トレ、ストレッチ、素振り…とにかく毎日とりつかれたようにやっていました。『没頭』= 願望を行動に変える事…今思い出しても私の人生の転機の一つ目は、この時期の、この決断にあったと思います。『没頭』していました。

『没頭とは、負担や怖さではなく、チャレンジする事に心身の全エネルギーを注入する実行力。』

どのようなスポーツ(仕事)においても、天性だけで成長できる選手はいない。と思います。確固たる目標に対して自主的に没頭できるかどうか？強いて言えば、人生の中に3年間。この3年間で人生の中で何回作れるかが大事ではと思います。考えただけで心が躍るような、ワクワクした気持ちになる目標。それに望む心構え、態度、行動、準備、トレーニング、イメージトレーニング。結果は出来上がっているの迷わない自分。ふと思えば、とても『幸せ』な時間であると同時に『辛い』事が山ほどあるのも事実。

さて、長男の哲平は来春から親元離れた寮生活、甲子園を目指すにあたり、どれほど没頭しているであろうか？全てを監督さんをお願いするので、高校に行ったら何も言う気はありません。残りわずかの時間で嫌がられない程度に探ってみようかと思う今日この頃です…(^_^)

本vol.34で今年が最終号となります。
いつも最後までお読みいただきありがとうございます。
今年一年おかげさまでありがとうございました！



大貫 潤平



代表取締役 大貫 潤平
【プロフィール】
昭和50年仙台市生まれ
東陵高校(野球部)卒業後、大手ハウスメーカー入社。
以後8年間大工としての基礎を磨き独立。
一念発起し伝統構法木造住宅を学ぶ。
平成18年大昔建築株式会社設立。
二男二女の良き父であり、日曜日には地元の少年野球でコーチをしている。



■建前(上棟式)について昔話を紹介します！

一建前の始まり—
く 大昔、ある高名な棟梁が明日建前だという前の晩になって、
玄關の柱が短くてどうしても届かなかったそう。
誇り高き棟梁は柱の足りなさを恥じて、自殺しようとして考えた。それを見た奥さんは、
死んで済むのなら自分が代わりに死んでよいとまで思ったそう。
混乱する棟梁にお酒を飲ませて寝かしつけ、一晚寝ないで考えたというのがマス組というものだった。
朝になって奥さんは棟梁に三つのマスを黙って差し出すと棟梁も「わかった!」と、
一升マス、五合マス、一合マスを使って、柱の足りない部分を見事に補って納めたという。
これがマス組を作った最初だということだそう。
ところが棟梁は、夫婦というものとは所詮他人同士の集まりで、いつ、どんなことで別れることになるかも知れぬ。
いつ、この恥が外に出るかも知れないと考えて、口封じのために女房を殺してしまった!
殺して永劫末代まで祭ってやるということで、女の七つ道具一口紅、おしろい、くし、かんざし、鏡、かつら、こうがい(髪をかき上げるときに使った簪のようなもの)を棟に飾って供養したということだそう。>



このようにして棟梁たちによって語り継がれてきた切ない建前の神話は、家を建てること=建前を仕事とした男の凄まじい執念と、その男の生き様に本音で殉じた女の物語はタテマエとホンネの語源となった。